

京都市香港情報拠点レポート(2018年10月・11月分)

1 統計

○訪日旅行者数(香港)

・2018年10月 169,500人(2017年10月 171,103人)(対前年比 -0.9%)

・2018年11月 167,200人(2017年11月 172,926人)(対前年比 -3.3%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内39ホテル対象宿泊実人数(香港)

・2018年10月 3,250人(2017年10月 3,495人)(対前年比-10.1%)

・2018年11月 5,961人(2017年11月 6,554人)(対前年比-14.6%)

※出典 京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人客宿泊状況調査」 ※対前年比は総営業部屋数の差異を補正反映

2 市場動向

■観光市場トレンド

<1人旅が流行「1年以内に再度」が8割>

香港では若い世代を中心に1人旅が流行の兆しを見せている。インターネット旅行予約サイト「エクスペディア」が実施した調査によると、これまでに1人旅をした経験のある香港人の8割が「1年以内に再度実行したい」と回答した。計画を立てずに、思いのままに旅をするスタイルも新たなトレンドとなっている。香港経済日報などが伝えた。

今年10月、これまでに1人旅をしたことがある18歳以上の男女約300人に調査を実施した。「1年以内に再度1人旅を実行したい」と回答した市民の主な目的は「自由や特別な体験の探求」で、その多くが25～30歳の若い世代だった。

調査の結果、回答者の75%が「1人旅の際に詳しい計画は立てない」と答えた。旅行日数は5日間以下が6割と最も多く、宿泊先は都市部の値ごろなホテルを選ぶ傾向が高かった。

エクスペディアによると、香港では1人での航空券予約が過去4年間で8割増加。今年は東京や台湾・台北、タイ・バンコク、韓国・ソウルなどの近場が人気だという。

【11月12日NNA】

<「ロイヤルパシフィックホテル」ペットボトルのミネラルウォーター提供を中止>

九龍半島・尖沙咀地区に位置し、チャイナ・マカオフェリーターミナルに直結する「ロイヤルパシフィックホテル&タワーズ香港」は、香港水道局が進めるエコフレンドリー活動の一環として、プラスチックストローの使用を全館で中止したことに続き、客室におけるペットボトルのミネラルウォーターの提供を中止した。

飲料水は、各客室に設置された空のグラスボトルを利用し、各フロアに設置された「ウォーターステーション」にて各自で水を汲み利用するシステムとなる。

今後、香港の他のホテルもこの取り組みに続くものと予想される。

【10月30日トラベルビジョン】

<学生の7割がKOLの勧めで商品購入＝調査>

香港の学生の7割が、影響力をもつ「KOL(ケーオーエル、Key Opinion Leader)」の勧めで商品を購入した経験があることが、香港バプティスト大学の調べで分かった。ただ購入後に品質に疑問を感じた人は半数以上に上り、専門家は購入前に広く情報収集するよう提言している。香港経済日報が伝えた。

同大学国際学院が今年5月、学生48人に聞き取り調査、学生475人にアンケート調査を行った。その結果、回答者の70%がKOLの推薦で商品を買ったことがあった。ただ、半数以上が購入後、商品の品質が推薦していたほど良くないことに気付いた。食品や飲料関係で特に顕著だったという。

調査では、学生にとって、KOLの推薦する商品を購入する上で最も重要な要素は「発言の信頼性」だったことも明らかになった。KOLの政治観念が自身と同じかどうか、学生が重視する要素の一つだった。

調査を担当した同大国際学院の講師は「KOLがネットで商品を販売する場合、背後には何らかの商業目的がある。消費者は多くの情報や意見を参考にし、賢い選択をしてほしい」と呼び掛けた。

【10月10日NNA】

■観光市場トピックス

【インバウンド関係】

<8月の訪日香港人宿泊2%減の54.8万人泊>

日本の観光庁が発表した8月の宿泊旅行統計調査によると、国内のホテルや旅館に宿泊した香港人の延べ人数は前年同月比2.2%減の54万8,560人泊だった。

国籍別で見ると、香港は4番目でシェアは8.2%だった。香港人宿泊者数の都道府県別構成比を見ると、最も多かったのは東京で、全体の19%を占めた。以下は大阪(18%)、北海道(13%)、沖縄(9%)、福岡(7%)の順だった。

都道府県別で外国人宿泊者に占める香港人の割合が多かったのは、徳島県(県全体の36%)、鹿児島県(31%)、高知県(30%)、鳥取県(29%)などで、香港からの直行便が多い九州や中国、四国地方が目立った。

8月の外国人全体の延べ宿泊者数は15%増の773万5,870人泊で、8月としては調査開始以来の最高値だった。三大都市圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫)は14.5%、それ以外の地方部は15.7%それぞれ増えた。

外国人宿泊者数の首位は中国で20.7%増の221万8,950人泊(シェア・33.1%)。以下、台湾(4.5%増の93万6,200人泊、14%)、韓国(2.9%減の92万9,840人泊、13.9%)、香港、米国(9%増の35万5,100人泊、5.3%)となり、この5カ国・地域のシェアは全体の74.5%を占めた。主要20カ国・地域で前年同月割れだったのは、香港と韓国の2カ国・地域のみだった。

3Qの旅行消費は15.7万円に

観光庁による7～9月期の訪日外国人消費動向調査(速報)によると、香港人1人当たりの旅行支出は15万6,868円だった。前年同期比では0.5%減。ただ今年から調査方法を変更してお

り、前年との比較は参考値としている。全体平均(15万5,522円)をわずかに上回った。平均泊数は6.7日。

費用別では、◇宿泊費:5万124円◇買い物代:4万8,035円◇飲食費:3万8,431円◇交通費:1万5,681円◇娯楽などのサービス費:4,555円——の順。宿泊費と飲食費の2項目は全体平均を上回った。

香港人の旅行消費総額は10.7%減の840億円。全体に占める割合は7.7%で、前年から0.1ポイント拡大した。7～9月の訪日香港人は7.4%減の53万3,000人。訪日外国人全体の旅行消費額は1兆 884 億円となり、このうち中国が 37.2%を占める 4,050億円だった。

【11月2日NNA】

<10月の訪日香港人1%減災害の影響続く>

日本政府観光局(JNTO)が21日発表した10月の訪日香港人は、前年同月比0.9%減の16万9,500人(推計値、以下同じ)だった。マイナスは2カ月連続で、今年に入って前年同月を割り込むのは5度目。近畿地方を襲った台風21号や北海道胆振東部地震など自然災害の影響が一部で残った。

訪日人数ベースでは、中国、韓国、台湾に次いで4番目に多かった。2016年4月以来の低水準だった前月(12万6,200人)からは34%増えた。

1～10月の合計は前年同期比1.1%減の183万1,200人。減少幅は1～9月と同じだった。

10月の全体の訪日外国人は1.8%増の264万600人で、10月としては過去最高を記録した。1～10月では9.7%増の2,610万9,300人だった。

【11月22日NNA】

<JALなど3社 香港で「農泊」販売開始へ>

日本航空(JAL)、民泊運営の百戦錬磨(仙台市)、JALグループの香港旅行会社JALサテライトトラベルの3社は29日、農家で伝統的な生活体験をする「農泊」を活用した訪日旅行商品を香港で販売すると発表した。JALサテライトトラベルが百戦錬磨の販売総代理店となり、香港市場で新たな訪日需要を創出する。

百戦錬磨の民泊・農泊予約サイト「STAY JAPAN」に登録されている日本全国の農泊商品を、JALサテライトトラベルで今冬から販売する。農林漁業体験など地域ならではの生活体験を組み込んだ宿泊サービスを航空券などとともに提供することで、日本の地方部への旅行需要を喚起する。

南三陸エリアを訪問するツアー商品の販売を皮切りに、北海道や青森県弘前、秋田県仙北、岩手県遠野、熊本県人吉・球磨(くま)といった地域の商品を順次販売する予定。

JALと百戦錬磨は2月、民泊や農泊を活用した日本の地域活性化事業の推進に向けて業務提携を締結していた。

【11月30日NNA】

<9月の訪日香港人23.8%減自然災害響く>

日本政府観光局(JNTO)が16日発表した9月の訪日香港人は、前年同月比23.8%減の12万6,200人(推計値、以下同じ)だった。人数ベースでは2016年4月(12万7,246人)以来の低水準。相次ぐ自然災害が訪日需要に影響した。

大阪・関西国際空港の閉鎖や北海道胆振東部地震、香港を直撃した台風22号などに伴い、航空便の欠航と旅行のキャンセルが発生。団体旅行、個人旅行ともに大きな影響を受けた。訪日人数ベースでは、中国、韓国、台湾に次いで4番目に多かった。

1～9月の合計は前年同期比1.1%減の166万1,700人となり、1～8月(1.4%増)からマイナスに転じた。

9月の全体の訪日外国人は5.3%減の215万9,600人で、5年8カ月ぶりに前年同月を下回った。関西と北海道での自然災害の影響を受け、訪日外国人の約7割を占める東アジア市場からの訪日需要が停滞した。1～9月では10.7%増の2,346万8,500人だった。

【10月18日NNA】

【旅行消費全般】

<Zujiエアチケットの支払い遅延認める>

オンライン旅行社「Zuji」が航空会社へのエアチケット代の支払いを滞らせ、先月から国際航空運輸協会(IATA)からBSP(Billing and Settlement Plan)でのチケット販売を禁止され、香港とシンガポールのサイトが影響を受けた。シンガポールメディア「海峡時報」の報道によると、シンガポールのサイトは運営を停止し、現地人員を整理すると伝えられている。Zujiのスポークスマンは、IATAへの支払いの滞りは短期間で解決する見通しで、香港の旅行者への影響はなく、香港サイトは通常通りチケット予約サービスを続けると発表した。

【12月1日アップルデイリー】

<沖縄ウェディング「早い・きれい・安い」で香港人を魅了>

日本は最も多く香港人が旅行する国で、東京と大阪がトップを争っているが、海外ウェディングでいえば、沖縄が抜きこんでいる。「ESDlife」の婚約カップル調査で、世界のトップに選ばただけでなく、大型旅行社の売り上げの半分を占める。沖縄は2012年にリゾートウェディングの宣伝を始め、太陽と青い海、精緻な教会、物価や近さなどのセールスポイントで人気を集める。中でも、香港人は海外客の中で最も多く、5年間で3倍に急増、1,218組に上る。

ESDlifeの調査によると、毎年全体の1割の香港人カップル(約5000組)が海外で結婚式を行っており、沖縄がトップ。式や披露宴、ホテル代などを合わせると13万5,000香港ドルを使う。ESDlifeは今年海外ウェディングに使われた費用は6億9,000万香港ドルに上ると指摘。これには招待客が使う費用は含まれておらず、旅行会社だけでなく、ウェディングプランナーやカメラマン、沖縄観光協会、JNTOなどが宣伝に力を入れている。

沖縄県観光振興課は、昨年の外国人のリゾートウェディングでは、一組の式に平均22.7人が参加しており、県外の日本人カップルより5人多く、滞在も1日多く、経済効果は、45.6億円(約3.2億香港ドル)に上ると語る。

多くの人が、結婚式がきっかけで沖縄を訪れ、ファンになり、観光に来ている。

【11月28日香港経済日報】

<7億人が国慶節休みに旅行日本がトップ・香港が第3位>

中国のオンライン旅行会社・C-tripは、中国の国慶節の休みに700万人が海外旅行へ行くこと概算した。目的地トップ10は、1位から日本・タイ・香港・韓国・シンガポール・ベトナム・台湾・マレーシア・ロシア・インドネシアの順。日本がトップになったのは初、香港も昨年の6位から3位に順位を上げた。

【10月1日明報】

＜星野リゾートが香港でPR 「重要な市場」外国人利用増へ＞

ホテル運営の星野リゾート(長野県軽井沢町)は16日、香港のメディアや有名ブロガーを対象に、傘下4ブランドの宿泊施設を紹介するイベントを行った。同様のイベントを香港で開くのは今回が初めて。星野佳路代表は、香港について「重要な市場だ」と述べ、日本国内外に抱える37施設で香港人を含めた外国人利用者の比率を高める考えを表明した。

九龍・尖沙咀の会場には香港のテレビや新聞のほか、消費者に影響力を持つブロガーやKOLら50人以上が集まった。星野代表は「37の施設で外国人宿泊客の比率を高めようとしていて、世界の大都市でこういったカンファレンスを開いている。香港もその一環。」とコメント。これまでにオーストラリア・シドニーや上海、韓国などで開いており、今後は北京やニューヨークで開催する予定という。

イベントでは、自身の写真も交えたスライドを使って、104周年を迎えた星野リゾートの成り立ちから現在展開するホテルブランド「星のや」「リゾナーレ」「界」「OMO(おも)」を紹介した。

4ブランド37施設の中でも沖縄県の竹富島に位置する「星のや竹富島」は、「まだ外国人の宿泊者は多くない」(星野代表)ものの、香港―石垣島間の直行便が運航しているとして、香港からの利用に期待を示した。温泉旅館「界」では、日本の伝統文化を採用しつつも、外国人宿泊者も快適に過ごせるように西洋風の室内アレンジを取り入れていることもアピールした。

星野代表は香港人宿泊客について、「施設によってインバウンド客の比率の差はあると思うが、(北海道の)トマムにある施設の利用がかなり多い」と指摘。東京や京都でも利用が多いという。

星野代表は向こう2〜3年以内に、中国を含めた海外での事業を発表したいと抱負を語った。

【10月18日 NNA】

■その他トピックス

【日本⇄香港航空路線就航情報等】

●キャセイパシフィック航空グループは23日、10月下旬の冬スケジュール開始から3路線を開設、12月にも新路線の就航を控え、香港のハブ機能の強化をアピールしている。

キャセイドラゴンは12月に徳島/香港線を就航する予定。これによりキャセイパシフィック・グループは、成田と羽田の東京、関西、名古屋、福岡、新千歳、那覇とあわせ、日本7都市8空港と香港を結ぶ。

出発空港	便数	就航航空会社
新千歳(札幌)	週16便	キャセイパシフィック航空、香港航空
関西(大阪)	週124便	ピーチ、キャセイパシフィック航空、香港エクスプレス、エア・インディア、ジェットスター・ジャパン、香港航空
成田(東京)	週116便	キャセイパシフィック航空、バニラエア、ジェットスター・ジャパン、香港エクスプレス、全日空、日本航空、香港航空
羽田(東京)	週56便	香港エクスプレス、全日空、キャセイパシフィック航空、日本航空、キャセイドラゴン航空

中部(名古屋)	週34便	香港エクスプレス、キャセイパシフィック航空、全日空
広島	週3便	香港エクスプレス
岡山	週3便	香港航空
米子	週2便	香港航空
高松	週4便	香港エクスプレス
福岡	週30便	香港エクスプレス、キャセイドラゴン航空
熊本	週2便	香港エクスプレス
鹿児島	週12便	香港航空、香港エクスプレス
那覇	週22便	香港航空、キャセイドラゴン航空
石垣	週2便	香港エクスプレス